	科	目 名			学年
分離操·	2D				
教 員	名 福地	賢治 : FUKUC	HI Kenji		
単位	授業時間	科目区:	分	授業形態	
2	100分×15回	選択		講義·後期	

授業 株式 サイス は できない かく は できない は から は できない は は できない は にない はない は にない はない は にない は に

到 達 目 標

評 価 方 法

(1)相平衡基本関係式が理解できること。(2)相平 衡状態図を読むことができること。(3)単位操作 「表界の収収、放散)の基本が理解できること。(4) | ス 評価基準性 ①60%②20%(③20%)

(蒸留、吸収、放散)の基本が理解できること。(4) 吸着操作を定量的に理解できること。(4) とする。									
学	習•教育	1月標	(D)(1)	JABI	EE基準1	(1)	(d)-(2)-a)	
	<u> </u>	項	目			<u>一</u>	容		
	第1	化学工 学の基		系、周囲、ギー	境界.	、プロセ	ス、熱、仕	上事、エネル	
	第2	化学工 学の基 式		熱力学第1法則・第2法則・第3法則、相平衡 の条件					
	第3	理想気	体	理想気体の状態量					
	第4	実在流 VT関係		実在流体の状態式、P-V-T関係					
授	第5	対応状	態原理	対応状態原理の基礎と応用					
	第6	熱力学	線図	熱力学線図を用いた物性値の計算					
業	第7	蒸留		気液平衡の	り基礎	せと応用 [・]	その1		
	第8	ガス吸り	乜	気液平衡の	り基礎	せと応用 [・]	その2		
計	第9	ガス放	散	気液平衡の基礎と応用その3					
	第10	吸着平	衡	吸着平衡の分類					
画	第11	第12 高圧気体の吸着 第13 吸着平衡の相 関		混合物吸着	かく かいま	対する取	り扱い		
	第12			見かけの呪	及着と	:真の吸:	着量		
	第13			拡張Radke	-Pra	usnitz式	の適用		
	第14			非理想吸着溶液モデルの適用					
	第15	まる	Ŀめ	履修した内また、授業		-		0	
自				・を課す。			_	-	
				学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ·					
				夏 化学工学熱力学(斎藤正三郎・日刊工業)					
+亚 +				ための物理化学(荒井康彦ら著・朝倉書店) に授業評価アンケートを行う。					
	授業評価·理解度 最終 副担当教員			- 技未計価。	ノク	<u></u> トを17	J.		
<u>'</u>	前担当教員 備 考								
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								